

令和5年度目標達成計画

東 館

事業所 グループホームメディフル藤田東館

作成日 令和6年3月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	52	○居心地の良い共用空間づくり 環境調整の必要性は理解できており、音楽やテレビの音、物音については取り組んでいるが、声(大きさや速さ、トーン、口調等)に対しては不足している。また、遠くから話しかけている場面も多く不快な刺激となっている。 音だけでなく、光や空調、色やにおいなどにも目を向けていき、利用者が居心地の良い共用空間で過ごせるようにしたい。	①認知症の人にとっての「音」の刺激や影響への理解が深まる ②利用者それぞれにとって、心地よい刺激、不安や混乱につながりやすい不快な刺激は何か把握でき、具体的な対策ができる ③人的環境となる職員の発する声が不快な刺激となってしまうまいよう、コミュニケーションの方法も含めて改善できる	①認知症高齢者にとって、必要な環境調整について学ぶ機会を持つ。 ②音楽やテレビなど音量や選曲だけでなく、時間帯や場面にも配慮して使い分け、ラジオなども活用していく。 ③利用者一人ひとりにとって心地よい音や声、光や空調、不快と感じる刺激が何か、カンファレンスや日々のケアの中で確認していき、定期的に振り返る。 ④自分では気づきにくい声については、職員間で伝え合うようにする。 ⑤誰(個人・多数)に向けて話しているのかを意識し、声かけの内容だけでなく、声の大小、強弱、スピード、トーンなどを大切にすること。	12ヶ月
2	38	○日々のその人らしい暮らし 一人ひとりのペースやタイミングを大切にしているが、職員の都合で誘導したり、全員同じタイミングで促してしまうこともある。 活動や手伝いが、職員の手順や都合で部分的な依頼となっていることがあり、本人のペースや満足に繋がっていない。	①一日の過ごし方が、一人ひとりの希望を聞いたり考えたりした上で決められるようになる ②その日の状態に合わせて、過ごし方を柔軟に変えることができる ③活動や手伝いが利用者のペースで、また最後まで行うことができ、本人が満足できるようになる	①職員都合やタイムスケジュールによって促すのではなく、必ず一緒に話したり考えたりしながら決めていく。 ②これまでの暮らしや拘りを把握し、継続できるための準備を整える。 ③その日の体調や気持ちの変化を把握し、職員間でも共有していく。 ④職員が先にしてしまわず、利用者のできる力やしようとする力を大切にする。 ⑤ミーティングや日々のケアの中で確認し、定期的に振り返る。	12ヶ月
3	35 (13)	○災害対策 各災害に沿ったマニュアルはあり、火災(昼夜)の訓練実施は利用者も参加し行えているが、地震や水害訓練は実践に乏しい。また、地域住民への参加や協力の呼びかけが十分にできていない。	①年間計画に基づいた研修や訓練の実施により、利用者の安全確保が行える実践力が向上する ②地域との協力体制が整う	①避難訓練は、本館利用者と合わせ27名の避難確保であることを意識できるよう合同で行い、反省や課題も含めて共有していく。 ②定期的なシュミレーション訓練を行い、意識してイメージすること継続する。 ③地域主催の防災訓練に参加する。 ④運営推進会議等で災害への備えや訓練の様子を報告するとともに、訓練への参加を呼びかけていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。